

「高校生のための学びの基礎診断」制度のイメージ

国

高等学校における基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの構築

取組を促進

測定ツールの充実

高校

社会で自立するために必要な基礎学力について、各学校がそれぞれの実情を踏まえて目標を設定し、教育課程を編成。

多様な測定ツールを活用しながら生徒の学習状況を多面的に評価し、指導の工夫・充実に図っていく。



結果の
分析・
活用

測定ツール

日々の授業や
指導の工夫・充実

テスト
実施



多様な学習活動の実施

設置者による学校
への支援

設置者



○高校の魅力づくりとともに、質の確保のための体制強化や再編整備

○学校支援のための教員人事配置や予算措置、教員研修等の取組

高校の実態に即したものとなるように仕組みを構築

各高校が、生徒の実情等を踏まえ、必要と考える測定ツールを選んで実施

「学びの基礎診断」の仕組みの構築

(一定の要件に即して民間の試験等を認定する仕組みを創設)

基準・条件等
の設定

事前・事後チェック
体制の整備

仕組みの構築と運用を通じて、示された基準・条件等を踏まえながら、民間において高校教育の充実に資する測定ツールの開発が進むことを期待

基準・条件等の考え方(イメージ)

出題内容に係る基準・条件等

- ・ 学習指導要領との対応や出題形式等、制度の趣旨・目的に合致する出題であること。
- ・ 受検者の学習成果や課題について確認できる結果提供であること。

※高校教育の多様性への対応と、共通性の確保のバランスに留意が必要。

実施方法に係る基準・条件等

- ・ 学校での実施や複数回受検等、学校の実情に応じて利活用できる実施方法であること。
- ・ 学校に過度な負荷がかからず、安定的・継続的に実施できる方法であること。

※学校にとっての利便性と、実施コスト(受検料に影響)とのバランスに留意が必要。

引き続き試行調査の結果や高校・教育委員会等の関係者、民間事業者等の意見を考慮しつつ、専門的な検討を加え、平成29年度中を目途に認定基準等を策定し、平成30年度中に認定制度の運用を開始することを目指す。



.....